

## 全学共通教育「日本語」「日本事情」

「日本語」	日本語 1、日本語 2、日本語 3、日本語 4、日本語 5、日本語 6、日本語 7、日本語 8
-------	---

平成 18 年度の共通教育の「日本語・日本事情」は以下のものであった。

コーディネーター

上田崇仁

### 日本語 1 [前期]

受講者数 6名

(韓国 2名、中国 1名、マレーシア 1名、アメリカ 1名、ブルガリア 1名)

使用テキスト

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他、The Japan Times

授業概要

本講義では、テキストを中心に各課のテーマを扱いながら進めていった。授業の流れとしては、まず課ごとにテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、ロールプレイや聴解問題、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学で生活していく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できるようになることを目標とし、実際に遭遇するだろうと思われる場面を設定して練習を行った。

### 日本語 2 [後期]

受講者数 12名

(マレーシア 5名、韓国 3名、中国 2名、ベトナム 1名、ブルガリア 1名)

使用テキスト

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他、The Japan Times

授業概要

本講義では、テキストを中心に各課のテーマを扱いながら進めていった。授業では、まず各課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、スピーチやディベート、レジュメ作りなどの実践的な活動を行った。留学生が大学での様々な場面に対応できるように、実際の講義やゼミでの演習などを想定しながら、より実践的な作業を取り入れた。知識としての日本語ではなく、学んだことを実際の場面で生かせるように、様々な場面を模擬体験し、フィードバックをする機会を多くした。

### 日本語 3 [前期]

人数： 12名（中国2名、マレーシア5名、韓国3名、ベトナム1名、アメリカ1名）

使用教材：紙芝居

四技能（読む・書く・話す・聞く）中、特に「書き」の力の向上を図ることを目的としたクラスである。大学生活に限らず、誰にでも、どこでも通じる日本語表現の習得を目標に、また、日本の昔話や伝説を知ることを目指して授業を行った。教員が語彙をコントロールしながら紙芝居を読み、それをメモに取りながら、自分なりの日本語で再構築するという活動を繰り返すと共に、母国の昔話を日本語で書いていくという活動を行った。母国の昔話については、学生サポーターや地域サポーターにも入っていただき、誰にでも分かる日本語での記述に努めた。学習成果は、平成19年度共通教育授業方法等改善経費を受け、「留学生の語る母国の伝説・昔話」として出版した。この出版物は、徳島県内の公立図書館、徳島市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、児童館に配布している。また、2008年1月6日付の徳島新聞にて報道していただき、希望する方への配布も行った。さらに、2008年1月25日には、四国放送ラジオの生放送にて、この授業についての紹介をしていただいた。

### 日本語 4 [後期]

人数： 11名（中国3名、韓国3名、マレーシア5名）

使用教材： アニメ マンガ日本昔話

「書き」の力の向上を図ることを目的としたクラスで、日本語3に続いて日本の昔話を利用し、母国の昔話を日本語で書き、それを読み聞かせるという活動を行った。この授業では、アニメーションを利用したため、日本語3とは異なり、分からない語彙が多く、学生は物語の前後からその意味を推測したり、授業中に質問をしたりして解決していた。日本語3同様に、日本の昔話の再構築と、母国の昔話、伝説の執筆を行った。その後、読み聞かせのための発音指導を行い、2008年1月12日に、徳島市内、内町児童館（喜多館長）にて読み聞かせの会を開催した。ここに至るまでの打ち合わせは4回である。会には40人程度の子供たちが参加してくれた。会の終了後、アンケート調査をした結果、何れも、初めて聞いた話が多く楽しかったという意見が集まった。

なお、この活動は、NHKの取材を受け、当日夕方、ニュースにて報道された。DVDを作成し、受講者及び内町児童館に配布した。

### 日本語 5 [前期]

人数： 8名（マレーシア4名、韓国3名、ベトナム1名）

使用教材： 「トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期」(スリーエネットワーク)

「トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 上級」(スリーエネットワーク)

上記教科書の中から3章(教育・ことば・ジェンダー)を抜粋し、読解力の向上を図った。速読の中でもトップダウン方式を身につけるべく段落中の中心文・キーセンテンス・キーワードの掴み方、論文やレポートの構成や必要な表現・語彙・決まりごとの獲得、グラフの読み方を学習した。またそれらを支える文法・文型の復習を行なった。進出語彙・表現等は事前に調べておくことを前提とし、その章の開始時に小テストを実施した。また各自テーマを決め、アンケートをはじめとした調査・分析を行い、最終的に発表を行なった。

## 日本語6 [後期]

人数： 4名(中国1名、韓国3名)

使用教材： 「ピアで学ぶ大学生の日本語表現」 ひつじ書房 他

論文の読み方を学習後、「書き」の力の向上を図ることを目的とし、大学生活で必須の「レポート作成」をテーマとした。レポートの書き方の前に、まとまった文を書く練習として「メール文の書き方」練習した。レポートは、論証型のレポート作成とし、各自がテーマを決め、作成の過程に沿って、実際各自で書き進めていった。この過程の中でペアを組み、質問をかわしあい、論証や反論の糸口としたり、第三者の視点をもらったりというピアワークをかなり取り入れた。また、日本人学生とのピアワーキングも行った。各自のレポートタイトルは以下のようである。

- 1 子供に嘘をつくことは、必要なのか
- 2 結婚と恋愛は別ですか？
- 3 なぜダイエットをするのか
- 4 「1日3回歯磨きは」は磨き粉会社の戦略？－正しい歯磨きの回数はいくらぐらいか？

## 日本語7 [前期]

人数： 11名(中国4名、韓国2名、マレーシア4名、ブルガリア1名)

使用教材： 生教材NHK「一期一会」「クローズアップ現代」など

日本人の職業間をテーマに、生教材を利用して、聞き取り及び自己の意見の発表活動を行った。また、最終段階では、地域サポーターや学生サポーターの参加を得、日本人の職業間について、実際にインタビュー活動を行った。

## 日本語 8 [後期]

人数： 7名（中国2名、韓国3名、ブルガリア1名、アメリカ1名）

使用教材： 特になし

不特定多数の読者を意識した日本語能力を身につけるため、ブログを利用し、与えられたテーマに沿って毎週二つの記事を書く活動を行った。記事に対しては、毎週の授業時に、全員の前で問題点や秀逸な表現を紹介し、相互のブログにコメントを付けさせることで、継続意欲を保てるように努めた。テーマは、偏りがないように、また、読む人間が書いた人間の考え方、人柄が推測できるようなものを選び、誰にでも書けるような作文を避けた。

授業に関しては、学習者からおおむね好評を得られたが、パソコンの扱いが苦手な学生がおり、ブログの開設や更新活動が困難であるという意見も出た。まだ全学生が自宅で自由に使える環境ではないことを前提にさらに検討が必要と思われる。

### 「日本事情」 日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ

#### 日本事情Ⅰ [前期]

人数：12名（中国3名、マレーシア4名、韓国4名）

使用教材：なし

前期の学年暦（および学事予定）に関する情報、常三島地区キャンパスの各種事務室の場所に関する情報を提供し、各々に関するテストを実施した。

その後、日本各地の情報を9回程度の授業に分けて提供した。「東北地方」、「中部地方」などの地区に関する語彙に加え、各県の特産物や有名なお祭り・風習に関する情報も提供した。

#### 日本事情Ⅱ [後期]

人数：11名（中国4名、マレーシア3名、韓国4名）

使用教材：なし

前期の学年暦（および学事予定）に関する情報、共通教育B館の改修に伴う常三島地区における事務室の移動に関する情報を提供し、各々に関するテストを実施した。

その後、徳島県の市町村、徳島市における生活情報などを9回程度の授業に分けて提供した。徳島縣市町村の名称だけでなく、北部、西部、南部のスポット情報や、徳島市内の地区名称（「住吉」、「田宮」など）、および徳島市内の生活情報などについての情報も提供した。

#### 日本事情Ⅲ [前期]

人数： 4名（韓国 1名、マレーシア2名、ベトナム1名）

使用教材： 生教材 NHK「クローズアップ現代」・雑誌、新聞記事

メインテーマを「日本・日本人を知る」とし、日本社会の抱えている問題点を扱った番組を視聴し、自分の持った問題意識に対してのプレゼンテーションとレポートを書いた。食糧問題、ニート、老老介護、学力向上など、学生から出たレポートは様々であった。

日本事情IV[後期] (総合科学部科目 「現代 GP 体験ゼミ」と共同)

人数: 8名 (中国 5名、韓国 2名、ベトナム 1名)

使用教材: ・ゲストスピーカーによる作成教材

メインテーマを「徳島を知るー吉野川を通して」とし、徳島のシンボルである吉野川について、いろいろな視点からのゲストスピーカーの講義を受けると共に、自分達のテーマを決め、調査し、最終的に発表を行なった。ゲストスピーカーによる講義は、①「吉野川概要」国土交通省・野町 浩②「吉野川流域の歴史と文化」徳島城博物館学芸員根津さん③「第十堰問題について」姫野雅義④「歌舞伎に描かれた吉野川」であった。